

審 判 上 の 確 認 事 項

審 判 委 員 長

1. 本大会は2016年度公益財団法人日本バレーボール協会6人制競技規則及び（公財）日本中体連バレーボール競技部における6人制の取り扱い、本大会の申し合わせ事項により実施する。
2. ラインアップシートが副審または記録員にいったん提出されたなら、正規の選手交代をせずに、ラインアップを変更することは認められない。
3. 監督は、記録席に一番近い席に位置し、ラリー中はベンチに座ること。
4. 監督がタイムアウトを要求するときは、ベンチから立ち上がり、口頭およびハンド・シグナルを示し行うこと。
5. ボールをプレーする動作中の選手による両アンテナ間のネットへの接触は反則である。
ボールをプレーする動作の中には、（主に）踏み切りからヒット（またはプレーの試み）、着地までが含まれる。
6. ゲーム中、控え選手のアップはアップゾーンで行いボールの使用は認めない。但しセット間において選手はフリーゾーン内でボールを使い、ウォームアップすることができる。
7. 競技参加者は、審判員の決定に対し、スポーツマンらしく反論せず、受け入れなければならない。
疑問がある場合には、ゲームキャプテンを通じてのみ説明を求めることができる。
8. 例外的な選手交代についての対応（正規な選手交代が不可能な場合の選手交代）は、交代された選手は、この試合には出場できない。但し正規のメンバー・チェンジとは数えない。
9. 選手のユニフォーム（上下）、ソックスの色とデザイン（リベロを除き）は統一されなければならない。アンダーウェアが襟元や袖口、パンツの裾から出でてはならない。
10. 番号はユニフォームの胸部と背部の、それぞれ中央に付けなければならない。番号の色と明るさは、ユニフォームと対照的でなければならない。
11. リベロについて
 - (1) リベロプレーヤーは、チームの他の競技者と対照的な色のユニフォーム（ユニフォームのデザインは異なっていてよい）、または、ビブス（ゼッケンのようなもの：このビブスは、高さ15cm以上の「L」の文字をつける）を着用しなければならない。また、リベロプレーヤーが2名いる場合は、他のチームメンバーと同様に、2名が異なった番号を付けるか、『ビブス』の色を変える必要がある。
①チームのユニフォームに関して、認められる例。
※正規のメンバーを1番～10番、リベロ2名が11番と12番とした場合。
 - 1) 正規のメンバーが白、リベロ2名が赤。
 - 2) 正規のメンバーが白、リベロ11番が赤、リベロ12番が紺。
 - 3) 正規のメンバーが白、リベロ11番が赤のビブス、リベロ12番が黄色のビブス。
 - 4) 正規のメンバーが白、リベロ11番が赤、リベロ12番が黄色のビブス。

<できれば、1)か3)が望ましい。>

 - ②リベロがビブスを使用する場合：公式練習が終了してから、ビブスを着用する。
 - ③中体連では、1チームにつき最大限12名までの登録ができる。その12名のうちリベロとしての登録は0・1・2名のいずれかをチームが選択する権利を持っている。
- (2) タイムアウト後、プレーヤーがコートに戻る場合は、タイムアウト直前のプレーヤーであること。もし、リベロが交代するときは、一旦6人がコートに戻った後に交代すること。

(3) 交代する選手同士、互いに接近し、サイドライン上で一旦立ち止まり（つま先をそろえて止まる）、誰と誰が交代するのかがはっきりわかるように交代する。

※交代は、必ずリベロリプレイスメントゾーンで行うこと。

(4) 一般と同様の『リベロリプレイスメント』ルールを適用する。

※これまでの取り扱いにおいては、リベロの交代に際して2組4名がリプレイスメントゾーンに並ぶことがあったが、今後の取り扱いでは認められない。

12. 選手は、ケガの原因となるような物（金属製のヘアピン、サポーターなど）や装飾品（ヘアバンド・ネックレス・ブレスレットの類）を身につけることは禁止される。（本大会申し合わせ事項）

※注意事項

(1) ソックスはくるぶしが完全に隠れる長さであること。《日本中体連バレーボール競技部より》

(2) 医療を目的としたサポーター類は、プレー上危険がある場合や、プレーに有利に働く場合を除いて、規制されない。《日本中体連バレーボール競技部より》

(3) セット開始前にコート内で円陣を行う際は、スターティングメンバーとリベロを含む6~8人で、副審がスターティングメンバーを確認する前に行う。（スムーズに試合を進行するためです）